



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 333

Oktober 2018

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

ドイツ統一記念日に際して

会長 栞田 義一

10月3日は東西ドイツが1990年に再統一した28回目の記念日でした。報道によれば、今年度は首都ベルリンで公式行事が行われ、シュタインマイヤー大統領、メルケル首相など政府首脳が出席して一連の記念式典が開かれました。ベルリン大聖堂での礼拝の後メルケル首相は統一について「28 Jahre später wissen wir, dass das, was wir Deutsche Einheit nennen, ein Prozess ist, ein langer Weg. 終わりのない長い道のりだ。28年を経ても途上にいる」と述べたと報じています。すでにご存じのように、ドイツでは東西の経済格差が今も残り、東では政治への不満を背景に排外主義を掲げる右派政党が支持を集めています。統一記念日を前にしてドイツの検察当局から、テロ組織を発足させた疑いで東部ケムニッツのネオナチの活動家ら8人を拘束し、ドイツ統一記念日に、外国人や政治的に意見が異なる人々への襲撃を計画した疑いが持たれていると発表されました。ケムニッツでは8月下旬にドイツ人男性が難民申請者によって殺害されたのをきっかけに、極右勢力による大規模な反移民・難民デモが相次いだこともあり、ベルリンでの記念式典が懸念されましたが事なきを得たようです。マース外相の統一記念日に際してドイツ大使館への寄稿において「相互依存が深まる21世紀の世界では、内向き傾向を克服することが求められています。たとえ現在、ナショナリズムやポピュリズムが世界中で台頭傾向にあったとしても、これに対抗していくのが正しいのであり、また対抗は可能です」と述べています。ベルリンの壁崩壊の際の写真によって飾られたブランデンブルク門の前に今年の記念式典のモットー「Nur mit Euch」の描かれた風船を手に集う市民の報道写真が印象的です。

10月3日の東京のドイツ大使館での「ドイツ統一記念日レセプション」でのご挨拶でヴェアテルン大使は「1961年にベルリンの壁が築かれてよりも、1989年に壁が崩壊された期間が長くなった」と述べられました。また10月5日のドイツ総領事館主催の「レセプション」でケーラー総領事はご挨拶でメルケル首相の「ドイツと日本は地理的には遠いが、特別な関係である」との言葉を引用され、変わらぬ日独友好関係の持続を強調されました。

主催行事のご案内

2018年度クリスマス祝賀会のお知らせとお願い

神戸日独協会の伝統ある最も重要な行事であるクリスマス祝賀会を開催します。現在実行委員会を中心にその企画を練っています。

この3年間クリスマス祝賀会の伝統に戻り、祝賀会に先立ち会員のご協力により「ミニコンサート」を行ってきました。本年も会員を中心に30分ほどのコンサートを行いたいと思いますので、ご協力をいただけないでしょうか。コンサートの形式は昨年のようにホームコンサートのようになればと実行委員会では話していますが、ご協力いただける方とのご相談で決めたいと思います。ご協力いただける方は協会事務室へご一報ください。

また、例年のように「お楽しみ抽選会」も予定していますが、景品のご提供をお願いいたします。

日 時： 2018年12月9日(日) 17:00～

会 場： 神戸倶楽部 (Kobe Club)

(神戸市中央区北野町4丁目15-1 TEL 078-241-2588(代))

会 費： 会員 7,000円 非会員 7,500円 (着席ビュフェ、飲物は各自払い)

定 員： 80名 定員になり次第締め切らせて頂きます。

多くの会員にご参加をいただいて、楽しい懇親の一夜を過ごしていただけるように現在鋭意準備中です。祝賀会の具体的な内容等については次号にて改めてご案内いたしますが、祝賀会をご予定に入れていただきたくお願いいたします。

会員によるコンサート、出演者募集！

神戸日独協会では本年度も「会員によるコンサート」を企画中です。

日 時： 2019年2月下旬か3月上旬

場 所： 音楽ホール&ギャラリー 里夢 SATOM(予定)

(神戸市灘区曾和町1-4-2-B1)(最寄り駅: 阪急六甲駅)

プロ・アマチュアを問いません。「昔ブラスバンドに入っていた!」、「バイオリンを習っていた!」、「歌が好き!」 usw. … 楽器の種類も問いません。会員の皆様とアット・ホームな雰囲気でのコンサートをしたいと思っています。一緒に演奏してくださる方を募集します。お問い合わせも大歓迎です!

お問合せ・お申込み: 協会事務室まで

西国三十三所1300年—巡礼とWanderung—

西国三十三所は、全国に600以上あるといわれる札所めぐりの中でも最も歴史が古く、全国数多くある観音巡礼の根源と言われています。

その範囲は、兵庫県(播磨・但馬)に4寺、大阪府(摂津・河内・和泉)に4寺、京都(山城・丹後波)に11寺、奈良県(大和)に4寺、和歌山(紀伊)に3寺、滋賀(近江)に6寺、そして岐阜県(美濃)に1寺と近畿一円、全行程は約930キロに及びます。これらの寺院には多く文化財を有する古刹、美しい景観を持つ名刹があります。

平成30年(2018年)は、草創1300年にあたり、各札所で記念の御朱印、特別展などのイベントが行われています。

札所のある各地の日独協会と交流しながら、日本で1300年続く文化を体験しませんか？

今回は、ラストサムライのロケ地になった第27番札所書瀉山圓教寺に行きます。11月16日(金)からは、重要文化財の特別公開や紅葉のライトアップをはじめとした「書写山もみじまつり」も開催されます。

2018年は草創1300年を迎える日本最古の巡礼路で、各札所で記念の御朱印、特別展などのイベントが行われています。最近では、国外にも発信され国外の観光客も増えています。

□日時／Zeit: 2018年11月17日(土) 13:10～15:30ごろ

Sonntag 22.7 2018 13:10～15:00

□場所／Ort: 書瀉山圓教寺

(集合場所: 姫路駅北口バスのりば⑩)

□費用／Kosten : 500円、交通費各自(姫路駅—書写山ロープウェイ: 往復540円、書写山ロープウェイ: 往復900円、ロープウェイ山上駅—摩尼堂: 500円)

□申込／Anmeldung: 2018年11月12日(月)までに Bis Montag 12. 11. 2018

Tel: 078-230-8150 E-mail: info@jdg-kobe.org

□バス案内／姫路駅(北口)系統名: [姫路駅(北口)～姫路高校前～書写山ロープウェイ]書写山ロープウェイ行き)

ドイツ家庭料理講習会

2018年度 第3回ドイツ家庭料理講習会 開催のお知らせ

7月にスタートをしました今年度のドイツ家庭料理講習会シリーズ第1回目及び第2回目講習会は好評のうちに終了することができました。ご参加の皆様には、ありがとうございました。

引き続き、第3回目の講習会を、今回は以前にもドイツ家庭料理をご指導して頂きました、合田ド

ロテアさんに、また新しい視点からのお料理をご指導いただきます。今回、合田ドロテアさんが掲げておられるお料理のテーマは、“早くて、簡単で、美味しい”イタリア風、和風、ドイツ風料理です。多くの会員の皆様、お知り合いの方々にご参加いただきますようご案内いたします。

◇日 時： 2018年11月18日(日) 13時15分—17時 (13時まで集合してください)

◇場 所： うはらホールの料理教室(JR 住吉駅すぐ南の東灘区民センター8階)(078-822-8333)

◇料理メニュー： メインメニュー Spaghetti mit frischen Tomaten

フレッシュトマトとシソの葉のスパゲッティ

前 菜

Asari Muschelsalat mit Knoblauch Baguette

あさり貝のサラダ、ガーリックトースト添え

デザート

Apfelpfannkuechlein

りんごのプティパンケーキ

◇参加費： 1200円(会員は1000円)と材料費

材料費の概算は、追って参加者にお知らせします。

◇募集人数： 24名

◇お申し込み： 参加ご希望の方は、11月5日(月)までに、神戸日独協会事務室まで、電話・FAX・メールにてお申し込みください。定員になり次第締め切らせていただきます。参加費・材料費は、当日現地でお支払いください。

☆当日、エプロン、タオル、レシピ(後日参加者に送付)と筆記用具をご持参ください。

第2回ドイツ家庭料理講習会に出席して

会員 井上 周一

当日は朝から強い雨で開催も心配されましたが開催時間間際には幸運にも雨が止みました。残念ながら当日酷い雨でキャンセルされた方もおられました。しかしながら20人の出席を得て人気の高さをうかがえました。今回の講師は前回と同じラッハマン早希子さんと北川玉恵さん、メニューは秋鮭の美味しい季節にピッタリのサーモンのパイ包みとセイボリーという珍しいハーブを使ったインゲンマメのスープ、デザートにキルシュの香りするサクランボソースがトッピングされたババロアでした。講師のラッハマンさんはデュッセルドルフ、エアランゲン(Erlangen、:ニュルンベルグの北方約17km)に計13年居住されたそうです。今回のメニューのスープは日本人には珍しいセイボリーというハーブ(ドイツでは豆のハーブといわれる)が何といてもポイントでした。独特の香りで淡白な豆が締まって美味しく感じました。ラッハマンさんのご主人はこのハーブが入っていないスープはあり得ないとの事です。皆さんも一度試してみられては如何でしょうか。冬場によく家庭で食べられるそうです。その所為か野菜の量が多くこれだけでもボリューム感満点でした。

秋鮭のパイ包みを頂きながら私は何年か前にカナダの国立公園でのキャンプでサーモンのホイル焼きを作って食べた事を思い出しました。

最後にデザートにキルシュソースとさくらんぼババロアはドイツ、フライブルグで食べたケーキ(キルシュクーヘン)が美味しかった事を思い出しました。ドイツ料理を通じてそれに纏わる家庭生活、食文化を知れる事は私にとっては貴重な体験でした。

ドイツ語講座・ドイツ文化教室 2018年度第Ⅲ期開講

神戸日独協会のドイツ語講座・ドイツ文化教室2018年度第Ⅲ期が10月9日より開講しています。ドイツ語講座の多くのクラスは前期からの継続クラスですが、途中からの受講は可能です。ドイツ語を初めて学ぶ方のクラスである「ドイツ語基礎入門講座」は今期は新規開講ですので、発音から始めたい方の受講をお待ちしています。開講講座の詳細については、前号会報に同封しましたパンフレットをご覧ください。協会事務室までお問い合わせください。多くの方の受講をお待ちしています。

行事参加感想

ドイツ大使館主催の秋祭りに参加して

会員 平山 梨絵

9月17日13時半から東京の駐日ドイツ大使邸で全国の日独協会会員のために秋祭りのイベントが行われました。

はじめに、駐日ドイツ大使 Dr.Hans Carl von Werthern 氏より丁寧なごあいさつの言葉をいただきました。スピーチの中で、今年度も全国から集まった日独協会会員をもてなすことができ大変光栄です、特に若い会員をこの機会にお目にかかれてうれしいですとおっしゃっていました。

その後、会員の方々との交流の中で、色々な方々と知り合いになりました。例えば、ドイツワインが好きな方です。その方は私に、今の時期どのワインがおすすめかなどを教えてくださいました。他には、オーストリア航空に勤められている方や、アメリカに留学されて現在獣医としてクリニックに勤務されている方など、さまざまな方とお話できました。

来場されている方の中には、今現在ドイツ語を学んでいる若い学生さんや高校生の方もいました。また、遠くから来られた方だと、秋田から夜行バスに乗って来られた学生さんがいました。

ドイツから3ヶ月の研修で来日されている、大使館のアシスタントの方2人と知り合いになりました。彼らは、日本での滞在はとても刺激的で有意義であるというお話をされていました。偶然にもその中の1の方が、最近神戸に旅行されて、ヴィッセル神戸の試合を見に行ったとのことでした。

会場ではbuffet形式のお食事が用意されていました。お料理は一通りのコース料理のように豪華でした。どの料理もとても美味しく、特にスイーツの種類の高さには感動いたしました。

あっという間に時間が過ぎて、まだまだ色々な方とお話したい気持ちもある中、来場者のみなで最後に記念撮影をしました。お庭の奥には古いかやぶきの家や貴重なつり鐘があり、大事に保存されていることにとても感心いたしました。

この度、秋祭りに参加することができ、とても良い経験になりました。この催しを企画していただき、駐日ドイツ大使館、全国の日独協会関係者の皆様に大変感謝しております。また来年度も、多くの新規会員の方がイベントに参加できるよう、そして今後ますますの両国関係の発展を願っております。

9月17日 ドイツ大使館にて

会員 合田 憲司

9月17日に行われた秋祭りのためにドイツ大使館へ行きました。その時の感想を、とのことで寄稿させていただきます。今回2回目の寄稿となりますが、こういった機会をいただいたことに感謝申し上げます。

さて、私は初めて麻布にあるドイツ大使館へ行ったのですが、麻布に降りた時から異国の方が多い印象を受けました。また、当然ではありますが大使館はとても立派な建物で、大きな日本庭園があったのが印象的でした。今回の秋祭りは若手の懇親会という目的があったそうです。実際に若手が多く、中でも女性が多い秋祭りでした。ただ、東京の日独協会の理事の方やドイツ大使館の職員の方も多く混じった会でありました。

今回主に印象に残ったことが大きく2つありました。大阪日独協会から来ていた京大の院生との会話です。京都大学院で歴史を専攻している男性と長く話をしたのですが、それが大きな刺激になりました。印象的な話題は若手が少ないということです。大学生や高校生といった学生もそうですが、働き始めたぐらいの年代が少ないのです。日独協会の活動にかかわらず、同年代で仕事を始めても何か趣味の活動を続けてるとい人はやはり少ないように思います。また、多くの外国語の中でもなぜ敢えてドイツ語を学ぶのか、という議論です。留学するにしても英語が十分にできれば大丈夫だという状況があり、ドイツ語を学ぶことにメリットを感じづらいのではないか、という話になりました。こういった話題は自分自身を振り返ってみるいい機会になったと感じます。

会場の空気が独特だったことも強く記憶に残っています。大使をはじめ、大使館職員であり今回挨拶の通訳を務めておられたオステンさんも貴族の方、ということで上流の社交場のような雰囲気がありました。野暮な私にはなかなか場違いな感じがして、気後れしてしまっていました。つくづくパーティーのような華やかな場所には向かないなあ、と思った次第です。

簡単ではありますが、報告・感想文とさせていただきます。拙筆にも関わらず、紙幅をいただきありがとうございました。

実行委員として神戸日独協会の活動に参加しませんか

神戸日独協会の主要な年間の活動は総会及び理事会によって決定されますが、日頃の活動は実行委員及び会員によって行われています。実行委員は定款上の役職ではなく、会員のボランティアによるものです。毎月第3日曜日に実行委員会を開催し、会員の方々が希望するあるいは実行委員のアイデアによる催し物を企画し、準備し、実行しています。神戸日独協会は会員の皆様の積極的なご支援を必要としています。

次回の実行委員会は10月21日(日)15時より協会会議室にて開催しますので、奮ってご参加ください。

ドイツ語談話室

第178回ドイツ語談話室

日時：2018年9月15日(土) 14-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：占星術(ホロスコープ)

今回の司会は松浦庸夫氏が担当され、まづホロスコープの歴史を振り返られた。ホロスコープの起源は約4000年以前にチグリス・ユーフラテス地方で始まり、その後ギリシャを経て広まったとされる。中世には、ローマカトリックが一時排斥したが、イスラム世界で広がり、ルネッサンス期に再びヨーロッパに広がったそうだ。司会者がホロスコープの星回り表をディスカッションの参考に作られて、参加者に配られた。以下、参加者の発言の一部を紹介する。

—ホロスコープのセミナーに参加した事もあるが、その考え方の中には、火・水・風・地の要素も含まれている。個人のホロスコープは、誕生日から、その時点に属する星と天体との関係で、性格や未来を予測する。こうしたホロスコープの予言から、人々は多くの事を学ぶことができる。また、その解釈を常にポジティブにとらえて、自分の決断の参考にする事が出来る。

—自分はホロスコープの知識を持っていないが、星回り表から誕生日は獅子座に属するようだ。しかし、妻の誕生日も獅子座に属するようで、衝突が多い。

—名前と誕生日から行われる姓名判断を聞いたことがあるが、自分にはよくわからなかった。その判断の根拠も理解しがたい。

—英国の作曲家、グスタヴ・ホルストの組曲「惑星」(The Planet)のCDを持参された方から、その曲の一部を聞かせてもらった。ホロスコープの星の7つが曲になっているとの事。

—ホロスコープを信じる事はしないが、ホロスコープの予言の内には、多くの有意義な点や人々に警句を発している点があると思う。

—自分の家系にはホロスコープの獅子座に当たるものが多い。そのせいか、いつも大声で話し合っていた事を思い出す。京都嵐山によく行くが、夜空にきらめく星々を見るのが大好きだ。最近はスマホに正確な星座が示されていて、実際の夜空でもすぐに星座が見つけれられて便利である。

—ホロスコープを信じてはいないが、自分の誕生日からは魚座になるようだ。宇宙にはとても関心があり、自分の星座を含め美しい星空にはいつも感激をする。

—正直、ホロスコープや中国の占い等に全く知識も関心もないが、今日皆さんのお話で、ホロスコープが4千年の歴史を持つ事を知り、4千年もの時間をかけて築き上げられてきた占星術であれば、それなりに意義のあるものだと思う。さもないと、現存していないと思う。

—自分には、ホロスコープの全てが当てはまるように思う。人々に幸福を運ぶことや、人々を喜ばせる事は自分に合っていると思う。

—自分のホロスコープは、双子座である様で、思慮深い性格となるようだが、趣味の俳句にも通じるところがあるように思う。

—ホロスコープについては知識がなく、皆さんの話から大変勉強になった。身内に姓名判断をする人がいたが、自身は疑問を持っていた。今は、施設を訪れて年配の方々に懐かしい歌をお聞かせして楽しんでもらうのが喜び。

—ホロスコープの星座ではないが、お月さまの日々の変化にとっても関心がある。主人と夕方の散歩が日課であるが、季節ごとの満月にもそれぞれの特徴があるし、毎日見ている月の形や位置の変わっていく様が、とても興味深くなる。

今後のドイツ語談話室の予定

第179回 2018年10月20日(土) 14-16時 テーマ : 秋祭り

第180回 2018年11月17日(土) 14-16時 テーマ : 私のお勧めの散歩道

Deutsche Gesprächsrunde Protokoll der 178. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 15. September 2018, 14 bis 16 Uhr

Thema: Astrologie (Horoskope)

Dieses Mal hatte Herr Tsuneo Matsuura die Gesprächsleitung und blickte zuerst auf die Geschichte der Horoskope zurück. Das Horoskop entstand vor mehr als 4000 Jahren im Gebiet des Euphrat und Tigris und verbreitet sich später in Griechenland. Im Mittelalter wird es von der römisch-katholischen Kirche verworfen, es erfährt jedoch eine Weiterentwicklung in der islamischen Welt. In der Renaissance findet es erneut Verbreitung in Europa. Der Gesprächsleiter hat eine Tabelle der Horoskop-Sternzeichen vorbereitet und Kopien verteilt.

Bei der Gesprächsrunde kam es unter anderem zu folgenden Wortmeldungen.

-Eine Teilnehmerin hat früher einmal an Horoskop-Seminaren teilgenommen und dabei gelernt, dass sich Horoskope auch auf die vier Elemente, Feuer, Wasser, Luft und Erde beziehen. Ein persönliches Horoskop macht Aussagen über Charaktereigenschaften und prophezeit die Zukunft aus dem Geburtstag und der relativen Planetenkonstellation dieses Tages. Man kann aus diesen Prophezeiungen viel lernen und sie auch positiv für eigene Entscheidungen nutzen.

-Ein Teilnehmer hat keine Kenntnisse von Horoskopen, er hat aber gehört, dass sein Sternzeichen der Löwe sei. Das Sternzeichen seiner Frau sei auch Löwe, daher vielleicht die vielen Zusammenstöße.

-Eine Teilnehmerin hat einmal von „Wahrsagerei aufgrund von Namen“ gehört, sie konnte das aber nicht verstehen. Die Begründungen waren für sie nicht nachvollziehbar.

- Ein Teilnehmer hat eine Musik-CD mit Gustav Holsts, „The Planets“ mitgebracht und einen Teil davon vorgespielt. In diesem Stück geht es um 7 Sterne aus dem Horoskop.
- Ein Teilnehmer glaubt eigentlich nicht an Horoskope, aber er denkt, dass unter den Prophezeiungen wohl auch viele sinnvolle Dinge, mitunter auch Warnungen, enthalten sein können.
- Eine Teilnehmerin erinnert sich, dass in ihrer Familie alle sehr laut sprachen, vielleicht weil auch viele unter dem Sternzeichen des Löwen geboren waren. Sie besucht oft Arashiyama in Kyoto und betrachtet dort die funkelnden Sterne am Nachthimmel. Heute zeigen Apps am Smartphone die Stellung der Gestirne sehr genau an, es ist leicht, damit Sternzeichen zu finden.
- Ein Teilnehmer denkt, dass sein Sternzeichen die „Fische“ sind, er glaubt aber nicht besonders an Horoskope. Indessen hegt er jedoch großes Interesse am Kosmos und begeistert sich für die Sterne.
- Ein weiterer Teilnehmer erklärte, dass er weder Kenntnisse noch Interesse an Horoskopen habe. Das gilt auch für die chinesischen Arten der Prophezeiung. Heute habe er aber gelernt, dass beide schon eine Geschichte von mehr als 4000 Jahren haben. Wenn sie sich über eine so lange Zeit erhalten und fortgebildet haben, ist vielleicht doch etwas daran.
- Ein Teilnehmer findet, dass fast alle Prophezeiungen des Horoskops eigentlich zu ihm passen. Der Gedanke, jemandem Glück zu prophezeien und so Freude zu bereiten, gefällt ihm.
- Das Sternzeichen einer Teilnehmerin ist „Zwilling“. Diesem wird die Charaktereigenschaft zugeschrieben, dass man sich um und für die Anderen Gedanken macht. Das würde auch zu ihrem Hobby, dem Schreiben von Haikus, passen.
- Eine Teilnehmerin hatte fast keine Kenntnisse über Horoskope, und so fand sie das Gespräch heute sehr interessant. Eine ihrer Verwandten machte Wahrsagen aus Namen, sie hatte aber Zweifel daran. Um Leute glücklich zu machen, besucht sie Altersheime und singt dort nostalgische Lieder.
- Eine Teilnehmerin macht jeden Abend Spaziergänge mit ihrem Mann. Dabei beobachtet sie den Mond. So hat der Vollmond, zum Beispiel, zu jeder Jahreszeit einen anderen Charakter. Es ist stets interessant, ihn in seiner immer wechselnden Gestalt zu betrachten.

Nächste Treffen

Samstag 20. Oktober, 2018, 14 bis 16 Uhr, Thema: Das Erntedankfest

Samstag 17. November, 2018 14 bis 16 Uhr, Thema: Mein Lieblingswanderweg

新連載 ドイツ語閑話

第1回 ドイツ語の文字の話

会長 柘田 義一

会員の皆さんは、ドイツ語で会話をするために、ドイツ語を読み書きするために、すでにドイツ語に関する「知識」を獲得していらっしゃることでしょ。ドイツ語文法に関してだけでなくドイツ語自体に関して、「なぜ?」「どうして?」という疑問をお持ちになることがあるでしょう。その解決、知識の「体系的な理解」を与えてくれ、ドイツ語の理論的な基礎固めを助けてくれるのが「ドイツ語学」の知識です。会員の皆さんのドイツ語学習の一助になればと、これから毎月ドイツ語からトピックを採り上げて、これまで長くドイツ語学を講じてきた経験から蘊蓄(?)を述べさせていただきます。

第1回目は、ドイツ語の文字の話をしてしまし。う。

音声は発生されるとたちまちに消え去ってしまします。音声言語によるメッセージは瞬間に消え去ってしまし、後には何も残りません。音声による伝達は同じ場面にいる者に限られます。このような音声言語の持つ時間性と空間性を克服するために、音声を写すことを思いつき、視覚による伝達手段として文字が考案されました。文字はペンのような書き付けるものと紙のような書き付けられるものの相違によって楔形文字や象形文字などの種々の文字を経て、紀元前2000年前半頃に現在紛争の続いているシリア・パレスチナ地方のセム人の間で単子音を表わすアルファベットが生まれました。これが紀元前8~9世紀頃にギリシア人に伝わり、母音を表記する文字が加えられて、今日ヨーロッパで広く用いられているアルファベットの母体となる文字体系が完成しました。ギリシア語アルファベットはローマ人に伝えられて、ラテン語では F を加え、[k]と[g]を区別するために C から G を作り、ギリシア語からの借用語の為に Y と Z を加えて、A から Z までの23文字からなる現在のアルファベットの原型となるラテン語アルファベットが作られました。

ゲルマン民族の間では木片や石に鋭く尖ったもので彫り付けられた直線的な書体のルーネ文字が使用されていました。この表記方法から英語で「書く」を意味する write はドイツ語の reißen, ritzen と同語源で「掻き傷を付ける」を意味します。ドイツ語の schreiben(書く)はラテン語の scribere(書く)に由来します。キリスト教がゲルマン民族の間に伝播されるのに従い、キリスト教と緊密な関係にあったラテン文字がルーネ文字に取って代わるようになりました。ドイツ語では VV の文字結合から W が追加され、U と V が分化し、ia, iu, io として用いられていた i を母音字 i と区別するために J が生まれ、15世紀に現在と同じ26文字のドイツ語アルファベットが成立しました。最初からすべての文字があったのではありません。

文字は英語等ヨーロッパの諸言語と同じでも文字の名称は異なります。母音を表わす a, o, u, e, i は発音そのものが名称に、子音を表わす文字で破裂音を表わすものは「子音+e」(be, de, ge, pe, te...)、鼻音、流音、摩擦音を表すものは「ε+子音」(em, en, el, er, es, ef)、Y はもっぱらギリシャ語を転写するものですから、「ユプシュロン」とギリシャ語の名称です。

これらのアルファベットに加えてドイツ語独特の文字として Ä, Ö, Ü, ß があります。Ä, Ö, Ü は唇を丸くして発音される母音 A, O, U の後に唇を左右に引いて発音される母音 I が続くとそれを意識し

て発音するために丸くすぼめた唇が本来の丸みを失い、更に舌も前に出て、その結果口腔内での共鳴が変わり、本来の A, O, U とは異なった音になります。これは「変母音化 Umlaut」と呼ばれる古代ドイツ語後期から中世ドイツ語期に起こった音韻変化です。この変母音化した母音を本来の母音と区別して表記するために Ä, Ö, Ü が用いられています。変母音化を引き起こした犯人の I は現在のドイツ語では E に弱まったり消失しています。この音韻変化は英語でも古代の時代に大々的に起こり「母音変異 Mutation」と呼ばれていますが、英語では一律に E で表記されています: men, elder など。かつては A, O, U のように文字の上に e を表記しましたが、面倒なので、の表記になりました。しかし地名・人名では母音の後に e, i が付記されることがあります: Goethe, Duisburg など。ゴエテ、ドウイスブルクではなく、口を丸めてゲーテ、デュースブルクですよ。ドイツ語仕様でないキーボードで Ä, Ö, Ü 文字がない場合も同じようにしますね。

ß はドイツ語の字体と印刷術の発達から成立しました。今日の小文字は中世のカロリングー王朝時代に広く使用されるようになり、この円く曲線的なカロリング体に代り15世紀頃からドイツではもっぱら直線的で鋭角的な書体が用いられるようになりました。これはドイツ文字 Fraktur と呼ばれ、日本では「亀の甲文字」とも言われ、懐かしく思われる年配の方もいらっしゃるでしょう。ドイツ文字の活字体では前後する2つの文字が合体した合字が印刷で用いられました: s と z が合字して

になりました。ですから「エスツェット」呼ばれます。ドイツ文字は第2次大戦後はほとんど使用されなくなりましたが、ß は遺物的に残りました。小文字の合字の為に大文字はなく、決して単語の初めには現れません。発音は[s]です。ß は ss で書き換えられますが、書き分けを覚えていますか。かつての規則は、「母音間で前の母音が短音の時は ss、それ以外は ß: essen – ißt」でしたが、ドイツ人も混乱を来すようになり新正書法では「長母音または二重母音の後でのみ ß」と単純になりました。現在では essen – isst であり、daß ではなく dass です。

ドイツ語の書記習慣に大文字書きがあります。新しい文の初まりを示す文頭の大文字書きが定着したのは16世紀からです。同時に文中で特別に強調されるべき語を際立たせるために、語頭の大文字書きが行われるようになりました。最初は固有名詞やそれに近い Kaiser(皇帝)や Papst(教皇)が、次いで Christ(キリスト)や Apostel(使徒)のような特定の人物が、さらに Gott(神)や Herr (主イエス)などの敬われるもの、Mensch(人間)や Welt(世界)などの集合概念へと広まりました。17世紀半ばには情報伝達の上で名詞が文中で最も重要な語であるという考えから、名詞の語頭文字を大文字書きする習慣が定着しました。1948年にデンマーク語が名詞の語頭文字の大文字書きを廃止してからヨーロッパ諸語でこの習慣を持っているのはドイツ語だけです。これは単に慣習的なもので、ドイツでもこれに強く反対する人もいます。また Handy の普及によりこの習慣もいづれなくなるでしょうが、われわれ外国人にとっては文の理解を大いに助けるものとしてありがたい習慣ですが。人称代名詞の Sie(あなた、あなた方)の語頭の S の大文字書きは、この代名詞が3人称複数の sie(彼ら)から転用されたものであり、これと区別するためです。Sie に対する所有代名詞 Ihr(あなたの)も頭文字を大文字書きします。さらに手紙などでは du, ihr も大文字で書く習慣があります。

ドイツ語を見ると、頭が痛くなる方、眠たくなる方が、ドイツ語の文字に親しみを持っていただけるとよいのですが。

事務室からのお知らせ

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の発送予定日は11月8日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越しください。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
10月13日(土) 14:00~	第16回 ドイツ文化サロン	神戸日独協会 会議室	今回に限り 当日参加可
10月20日(土) 14:00~	第179回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室	当日参加可
10月21日(日) 15:00~	実行委員会	神戸日独協会 会議室	当日参加可
11月17日(土) 13:10~	西国三十三所1300年 —巡礼とWanderung—	書瀉山圓教寺	11月12日(月)まで
11月18日(日) 13:00~	第3回ドイツ家庭料理講習会	うはらホールの 料理教室	11月5日(月)まで